

〈編集後記〉

私は正岡子規の「柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺」が妙に気に入っている。

最近、ふと気になってネットで調べたところ、この句は子規が奈良を訪問し、宿で柿を食べているときに東大寺の鐘が鳴ったのを句にしたと書かれていた（井口時男「井口時男が読む『教科書の俳句』第1回 正岡子規①」）。さらに調べたところ、子規は『ホトトギス』（第四卷第七号 明治三四・四二・四五）に、「柿も旨い、場所もいい。余はうつとりとしているとボーンという釣鐘の音が一つ聞こえた。……あれはどここの鐘かと聞くと、東大寺の大釣鐘が初夜を打つのであるという。」とあった。井口時男は「子規は事実そのままより『句法』の強さ、すなわち詩的効果というものの方を重視しているのである。」と書いている。東大寺を法隆寺に置き換えたという事実に接して私は納得したり戸惑ったりしている。

私は「令和の日本型学校改革」や「地域に関する学科」の設置に子規の句と同じ納得感と戸惑い感がある。受け入れる前に、今は置き換える前の高校魅力化を記録することに全力を注ぎたい。

いつもながら、びんずネットの金子あかね氏・金子純一氏にビジュアルで丁寧な編集をしていただいた。感謝いたします。

（地域人材育成研究会代表・樋田大二郎）

5

地域人材育成研究

第5号

二〇二二年二月三十一日発行

特集…各地の高校魅力化プロジェクトを紹介

島根県立吉賀高等学校の

高校魅力化（1）

Print ISSN 2435-3604
Online ISSN 2435-3612
ISBN978-4-910384-05-4 C3037

本誌の全文の電子ファイルは次の地域人材育成研究会ウェブサイトでご覧いただけます。
<https://rhrd.net/>

デザイン…金子あかね・金子純一
編集・発行…地域人材育成研究会